

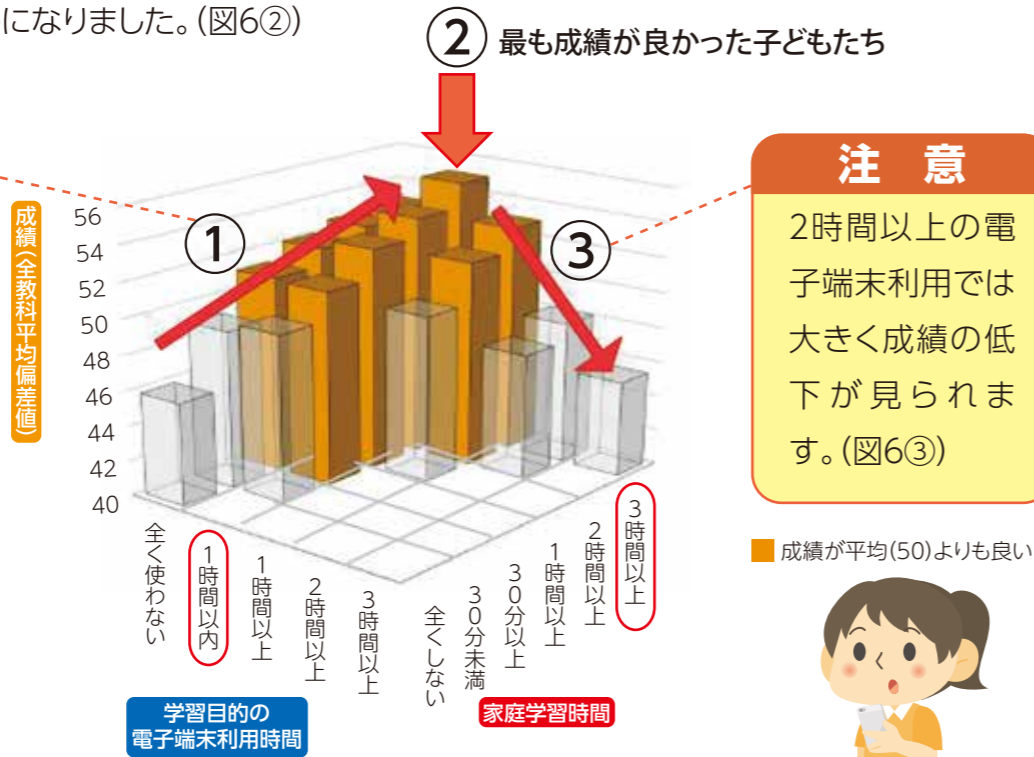
家庭学習でもタブレット端末等を使用することが日常的になってきました。今回の調査からは **家庭学習での電子端末の学習への効果**が見えてきました。

家庭学習で電子端末を学習のために利用する場合は、「1時間以内」のときに成績がピークになることが明らかになりました。(図6②)

これまでの調査で家庭学習時間の長さや成績の高さには一定の関連があることが分かっています。

(図6①)

【対象】  
令和4年度の小学3年生から  
中学3年生44,061人



### 注意

2時間以上の電子端末利用では大きく成績の低下が見られます。(図6③)



図6. 学習目的の電子端末利用と成績, 家庭学習時間との関係

家庭学習での電子端末の学習への効果は、使用の有無や時間の長さによるのではなく、**活用の仕方**が鍵となることが分かります。

**学習の「目的」や「内容」**によって、電子端末の利便性を活用し、他の学習法とどう組み合わせたらよく学ぶことができるのか子どもも大人も考えていく必要があります。

**目的に応じてバランスよく活用することが学習の効果につながります！**

### 発行元:「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 川島 隆太(東北大学加齢医学研究所所長)  | 筒井 健一郎(東北大学大学院生命科学研究科教授) |
| 杉浦 元亮(東北大学加齢医学研究所教授)  | 細田 千尋(東北大学大学院情報科学研究科准教授) |
| 松崎 泰(東北大学加齢医学研究所助教)   | 榊 浩平(東北大学加齢医学研究所助教)      |
| 多賀野 修久(仙台市立榴岡小学校長)    | 新妻 英敏(仙台市立台原中学校長)        |
| 松川 真也(仙台市教育委員会学校教育部長) | 久世 達也(仙台市教育委員会学校教育部参事)   |
| 佐々木 賢哉(仙台市教育センター所長)   | 蓮沼 秀行(仙台市教育委員会学びの連携推進室長) |

### 事務局

- 丸山 淳(学びの連携推進室主幹)  
木村 昌宏(学びの連携推進室主任指導主事)  
鈴木 香里(学びの連携推進室指導主事)

仙台市ホームページ(仙台市教育委員会)  
「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト



# 夢に向かって! やり抜く力を育みましょう

— 仙台市標準学力検査, 仙台市生活・学習状況調査結果の横断・縦断分析結果から —

**「やり抜く力」を育てるために  
子どものチャレンジを後押ししましょう!**

**将来の夢や目標の達成に向けて  
普段から話し合う機会を持ちましょう!**

**家庭学習での電子端末は目的に応じ活用しよう!  
学習方法を組み合わせてバランスのよい学習を!**

### 生活・学習状況 調査の目的

- ①児童生徒の学習状況や生活習慣等について、全市的な規模で客観的な分析・把握を行う
- ②各学校が、自校の成果と課題を把握・分析し、指導の工夫・改善を図る
- ③調査結果を、個に応じたきめ細かな指導の充実に生かす

### 調査内容 (質問紙調査)

- 学校生活 ○授業 ○学習意欲 ○家庭生活 ○自由時間 ○家庭学習等  
○社会・地域とのかかわり ○道徳心・挑戦・夢 ○自分づくり

### 実施状況等

- ①実施校数：全市立小学校118校 全市立中学校64校 市立中等教育学校1校
- ②実施日：令和4年4月12日(火)～15日(金)

学年	有効回答数	学年	有効回答数
小5	8,191人	中1	8,173人
小6	8,439人	中2	8,003人
		中3	7,849人



東北大学の先生からのメッセージ(動画)→



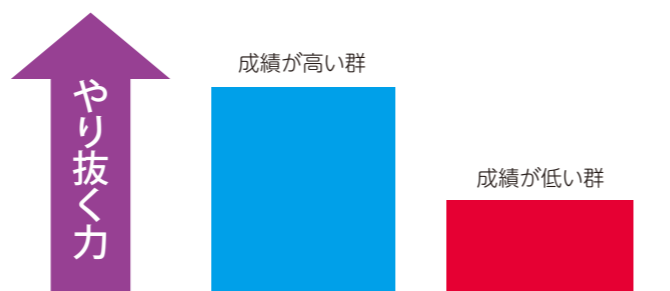
# 「やり抜く力」が身に付いていますか？

スマートフォンなどで検索すれば手軽にすぐに答えが見つかります。しかし、自分自身に力を付けようと思ったら、長期的な努力が必要となります。

## 【成績が高い人は「やり抜く力」がある】



成績が高い人たちの方がやり抜く力が高いことが明らかになりました。(図1)

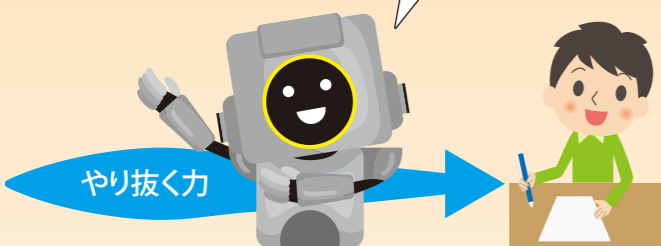


※成績が高い群:平均偏差値が55以上  
低い群:平均偏差値が45以上

図1. やり抜く力と成績\*との関係

【対象】令和4年度 小5~中3(39,895名)

やり抜く力が高い子どもの傾向を分析しました

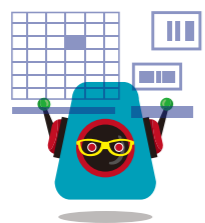


なるほど。でも、「やり抜く力」はどうやって付くのかしら？



## 【チャレンジ精神が重要】

図2は、やり抜く力が高い子どもの傾向を人工知能に分析させたものです。この結果、チャレンジすることや自分の可能性を信じること、勉強を楽しむことが特に大事だということが分かります。



【対象】令和3~4年度 小5~中3(80,818名)

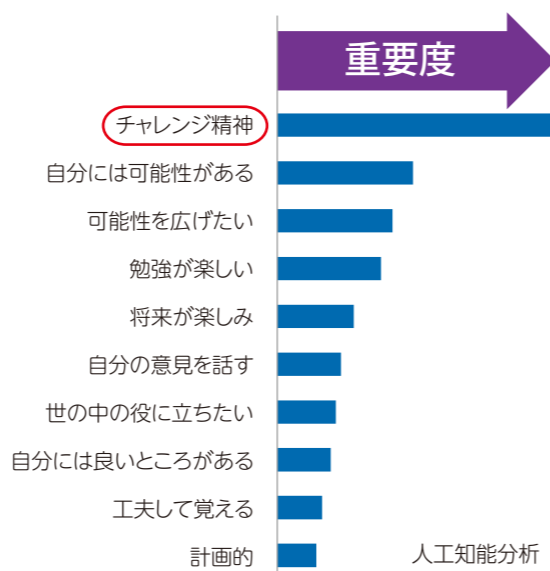


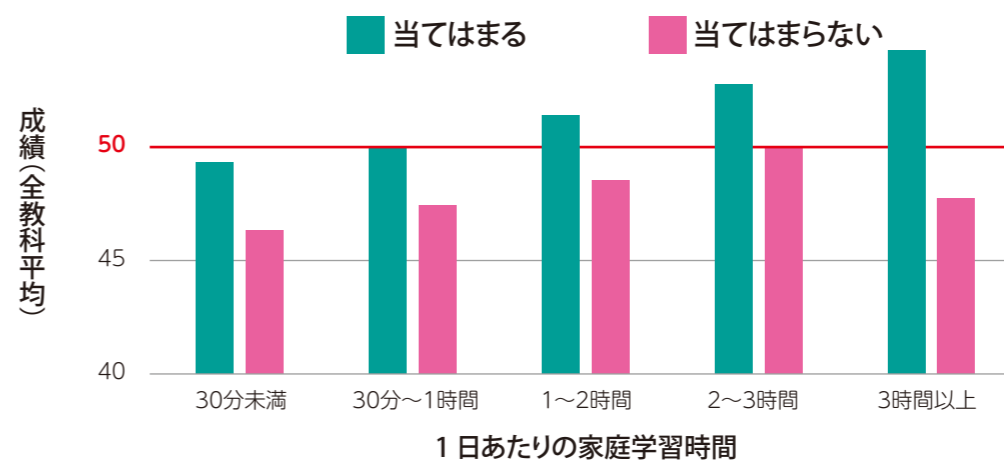
図2. やり抜く力が高い子どもの傾向

子どもが様々なことにチャレンジすることを後押ししていきましょう！

# 将来の夢や目標を持っていますか？

夢をかなえるために勉強をしている子どもたちは、そうではない子どもたちと比べて、同じ時間勉強をしても成績が高いことが分かります(図3)。勉強をたくさんしているから夢を持っている子どもたちは、成績が高いという訳ではなく、将来の夢をかなえたいという強い気持ちを持って勉強することで、学習の効果に良い影響があるといえます。

## 「自分の夢をかなえるために、たくさん勉強する。」



【対象】令和4年度 中1~中3(22,037名)

図3. 学習目的(夢をかなえるため)別にみた、家庭学習時間ごとの成績

学年が上がるほど、夢や目標を持っている子どもたちの割合が低くなっています。(図4)

夢を持ち続けるためにはどうしたらよいのでしょうか？

将来について家の人と話し合っている子どもたちは夢を持ち続けている割合が高いことが分かります。(図5)



図4. 将来の夢や目標を持っている子どもたちの割合

【対象】令和4年度 小3~中3(51,315名)

将来について家の人と話し合っている

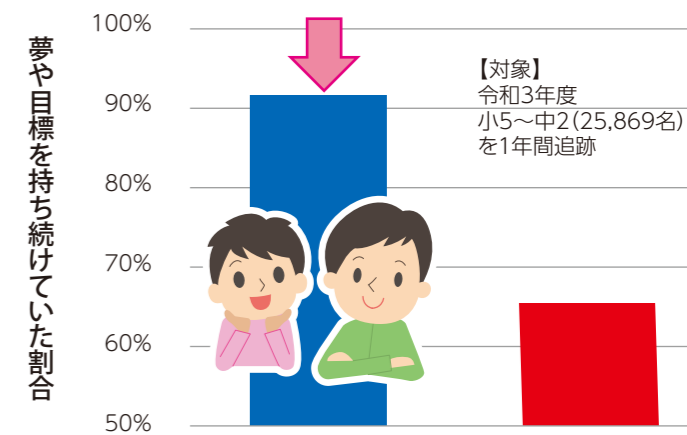


図5. 将来の夢や目標を持ち続けることと、将来について家の人と話し合っているかどうかの関係

ふだんから子どもと将来について話し合ってみましょう！